

令和7年度広島キャンパス卒業式・大学院学位記授与式

学長式辞

ご卒業並びにご修了まことにおめでとうございます。併せて皆さんをこれまで支え、励まして来られました保護者の皆様に対しまして、あらためまして心よりお祝いを申し上げます。また、広島県知事代理山根健嗣（ヤマネタケシ）広島県副知事様をはじめ、多くの御来賓の方々のご臨席のもと、皆さんの門出をお祝いできますことは、私たち教職員一同の最も喜びとするところであります。

本学は、創立百年を超える長い歴史の中で、地域とともに歩み、地域に根ざした知の拠点として発展してまいりました。その伝統を受け継ぐ広島キャンパスにおいて、地域創生学部は、地域社会が直面する課題に正面から向き合い、未来を切り拓く人材を育成することを使命として設置されました。皆さんは、その理念のもとで学び、行動してきました。一期生から引き継がれる、その精神を確実に体現する存在であったと言えます。

広島という地域は、日本、そして世界にとって特別な意味を持つ場所です。戦後の廃墟から立ち上がり、「平和」を都市の根幹に据えて復興を遂げてきた広島の歩みは、人間の強さと、未来を信じる力を私たちに教えてくれます。皆さんは、この地で学ぶ中で、平和とは単なる理念ではなく、日常の選択や行動の積み重ねによって支えられるものであることを、肌で感じてきたのではないのでしょうか。

一方で、広島は都市部だけで成り立つ地域ではありません。中山間地域では、人口減少や高齢化、産業の担い手不足といった課題が顕在化し、瀬戸内海沿岸や島しょ部では、豊かな自然と引き換えに、交通や医療、雇用の確保といった問題が存在しています。こうした多様な地域課題は、皆さんが地域創生学部や大学院で学んできたテーマそのものです。

在学中、皆さんは講義や演習に加え、フィールドワークや地域連携活動を通じて、現場に足を運び、地域の方々の声に耳を傾けてきました。統計や理論だけでは見えてこない、地域に暮らす人々の思いや生活の実情に触れた経験は、皆さんの視野を大きく広げたことでしょう。地域創生とは、外から与えられる解決策ではなく、地域の内側にある価値を見出し、人と人との関係性の中で形づくられるものであることを、皆さんは学びました。

また、皆さんの学生生活は、社会全体が大きな変化と不確実性に直面する時期と重なりました。そのような状況の中でも、学びを止めず、仲間と支え合いながら前に進んできた姿は、これからの地域社会にとって大きな希望です。変化の激しい時代においてこそ、地域を深く理解し、多様な人々と協働できる力が求められます。

これから皆さんは、それぞれの道を歩んでいかれます。広島で地域づくりに携わる人もいれば、全国、さらには世界へと活躍の場を広げる人もいるでしょう。しかし、どこにいても、広島で学んだ「平和」「共生」「地域へのまなざし」を心に留めてください。それは、皆さんが社会の中で判断し、行動する際の確かな指針となるはずです。

保護者・ご家族の皆様におかれましては、これまで温かく学生生活を支えていただきましたことに、大学を代表して深く感謝申し上げます。本日の卒業式は、皆様の支えの結晶でもあります。

卒業生の皆さん。県立広島大学は、皆さんの母校として、これからも地域とともに歩み続けます。どうか誇りを胸に、それぞれの場所で人と地域をつなぐ存在として活躍してください。皆さん一人ひとりの歩みが、新たな広島、そして新たな地域の未来を形づくることを、私たちは心から信じています。

結びに、卒業生の皆さんの前途に、限りない希望と幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

令和8年3月25日
県立広島大学
学長 森永 力